

指導者 瀬上小教諭 円谷 良正

1. 研究主題「個を認める研究」

一学習意欲を高めるために一

学習を進めるための前提として大切なものは、児童の学習意欲である。

しかるに、意欲をもたせ、積極的に学習に取り組ませるための具体的な方法については、いつも実践の場で問題にされながらも、いまだに適切な方法は見い出されていない。

本研究では、児童の個性と学力に応じて、意図的・計画的に、まんべんなく「個を認める」はたらきかけがなされていけば、その「認められた」ことが契機となって、どの児童も意欲的・積極的に学習に取り組むようになるのではないかと考え、一斉指導における「個を認める」はたらきかけのあり方を追求する。

2. 研究主題の解決策

(1) 前提条件

① 一人一人の児童の性格と学力とを把握し、個を生かすために、下記の資料を活用する。

- Y-G性格検査 • 学力検査
- 知能検査 • 前学期の成績
- 事前テスト

② 授業の中で、児童の主体的な活動の時間をできるだけ多くとり、教師はその間個別指導に努める。

(2) 解決策

① 授業ごとにあらかじめ3～4人の児童を決めておき、その子たちを授業の中で「認める」場を意図的・計画的に設定し、短時日のうちには、少なくとも1回は、どの児童も「認める」ようにする、このことを継続して行う。

3. 研究主題と本時とのかかわり

児童名	前学期評定	学力SS	知能SS	Y-G性格類型	所 見
A	4	68	69	AB	<ul style="list-style-type: none"> • 活動的、外向的である。 • 学級のリーダーとして、信頼されている。 • 授業に積極的に参加し、理解も確実である。
B	3	45	58	AD	<ul style="list-style-type: none"> • 社会的適応性があり、積極的、外向的である。 • 積極的に授業に参加する。理解はやいが確実さに欠ける傾向がある。

C	2	38	44	C'	<ul style="list-style-type: none"> • 消極的内向性でやや情緒の安定を欠く傾向がある。 • 授業での発言も少なく、消極的であるが、家庭学習をしていくなど改善しつつある。
---	---	----	----	----	---

1. 単元名 立体

2. 単元目標

- (1) 角柱や円柱、角すいや円すいの基本的な性質について理解させるとともに、柱体やすい体の底面、側面、高さを知り、それらを認めることができるようにする。
- (2) 角柱や円柱、角すいや円すいの展開図を読んだり、書いたりすることができるようにするとともに、その構成活動をとおして構成要素の位置関係について理解させる。
- (3) 角柱や円柱、角すいや円すいの立体について、立面図や平面図を読んだり、書いたりすることができるようにする。

3. 指導計画……………(総時数11時間)

- (1) 角柱と円柱……………(4時間)
 - ① 角柱、円柱の概念と「底面」と「側面」……………(1(本時))
 - ② 高さや角柱の展開図……………(1)
 - ③ 円柱の展開図……………(1)
 - ④ 模型づくり……………(1)
- (2) 角すいと円すい……………(3時間)
- (3) 真正面、真上から見た形……………(3時間)
- (4) ま と め ……………(1時間)

4. 本時の目標

- (1) 角柱や円柱は、2つの底面が合同な多角形や円で、たがい平行であることを理解させる。
- (2) 用語「立体」・「角柱」・「円柱」・「底面」・「側面」を知らせる。
 - ① 立体を調べる観点を見つけることができる。
 - ② 合同、平行な面があることがいえる。
 - ③ 角柱、円柱、底面、側面を指摘できる。
 - ④ 角柱や円柱の性質をことばでまとめることができる。

5. 児童の実態……………略